BOOKS ブック・レビュー

読書感想文

ベサニー・ハミルトン

「ソウル・サーファー —サメに片腕を奪われた13歳」

小林　杏奈（あんな）（13歳）

杏奈さんは、本誌1～4頁の「ビジネスの危機を転機として」に登場する小林家の3女です。

この本は、私と同じ年の13歳でサメに片腕を奪われた、サーファーの女の子に起きた実際の話です。

主人公のベサニー・ハミルトンが、私と同じホームスクーラーなので、とても親しみを感じて読み始めると、先が気になって、止める事ができず夢中になって読みきってしまいました。

読んでいくうちに、私だったら絶対立ち直れないって思ったし「何で私がこんな目に合わなきゃいけないの？」といって、現実から逃げて、神様から離れて行ってしまったかもしれないと思いました。

だけど、ベサニーは、ちょっとは「何でこんな目に」と思ったけど、現実を受け入れて神さまから離れないで「人生は『もしも』だらけ。そんな事でしりごみなんてしていられない」というんです。

私は本当にその通りだと思いました。人生は、何が起こっても不思議じゃない。だからマイナス要素を恐れないでチャレンジするんだ。私は、このことを教えてくれた、ベサニーにとっても感謝しています。

ベサニーの家族は最高だと思います。全員が神様に信頼する、熱心なクリスチャンファミリーなんです。家族みんなが愛にあふれていて、例えば、家族の誰かがコンテストに優勝したら、自分の事のように喜んでくれるし、また負けても誇りに思ってくれて、いつもベサニーの1番のファンでいてくれる。私は、本当にこの家族は素敵なチームだと思います。私も将来こんな家族をもちたいと思いました。

私が同じクリスチャンであることで嬉しかったのは、ベサニーの事故の直後から知らせを聞いた多くのクリスチャンがいっせいに祈っていた所です。いくつものラッキーな偶然（奇跡）がかさなりました。

『ここまでくるには物凄くたくさんの事がベサニーにとって、いい方向に運ぶ必要があったのです。全てが彼女の為になるように働いたのです。』と主治医がお母さんに言いました。神さまはベサニーの人生に素晴らしい計画を持っておられたんだと思いました。

それからのベサニーは、多くの人に希望や勇気を与えてすごいです。ベサニーのおかげで救われた人はたくさんいると思います。その一人が、この本に出てくるローガンという片腕を失った8年生の男の子です。

ベサニーなら励ますことが出来るかもしれないと考えてた人から、メールが送られてきたのです。ベサニーはローガンに電話をし、話していくうちに彼の気持ちが明るくなっていくのを感じとります。その後また連絡を取り合うことを約束して、電話を切ったベサニーは、ローガンは立ち直りつつあることを感じとり、素晴らしい気分になって、「こんな形で伝道者になれたらいいなと思う。すてきなことだし。……」と言うのです。ベサニーは本当に勇気のある素晴らしい伝道者だと思います。

ベサニーが言った素敵な言葉はいくつもありますが、私が1番好きな言葉は「腕がないと、見かけが人と少し違うかもしれないけれど、気にしない。これが私なんだから」です。

私はこの言葉を読んだ時、自分も友達に言ってあげたくなりました。

私はベサニーは本当に素晴らしい人だと思うし、私もベサニーのようにどんな壁にぶつかっても、神様に信頼して歩んで行きたいです。

いつかベサニーに会えたらいいなと願っています。

ベサニー、ありがとう

＊ベサニー・ハミルトンの伝記を元にした映画『ソウル・サーファー』が2011年4月に全米公開されました。日本での公開は12月現在未定です。

「ソウル・サーファー　—サメに片腕を奪われた13歳」

著者　ベサニー ハミルトン
翻訳　鹿田 昌美
ヴィレッジブックス　文庫 197ページ
＊本書は、ファミリー・フォーラム・ジャパンでは取り扱っておりません。